

平成 22 年 5 月 17 日現在

研究種目： 基盤研究 (C)

研究期間： 2007～2010

課題番号： 19529003

研究課題名 (和文) 中世前期貴族社会における漢詩文の基礎的研究

研究課題名 (英文) A Study of Chinese Poetry and Writing in the Japanese Middle Ages

研究代表者

仁木 夏実 (NIKI NATSUMI)

明石工業高等専門学校・一般科目・講師

研究者番号： 40367925

研究代表者の専門分野：日本漢文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：中世前期・漢詩文・儒者・公家日記・和漢兼作集

1. 研究計画の概要

本研究は、平安時代後期から鎌倉時代、いわゆる中世前期、主に京都の貴族社会において制作された漢詩文について基礎的な研究を行うことを目的とする。従来の日本漢詩文研究は、大きく奈良時代から平安時代にかけての貴族による漢詩文、室町時代の禅僧らによる五山文学、そして、江戸時代の儒学者らによる漢詩文、という三つのピークを中心に進められてきた。それぞれは独立したものとして扱われ、それらをつなぐ試みは殆ど行われていない。本研究では、諸所に残る漢詩文資料を収集と漢詩文制作の実態についての整理の2つの作業を柱とし、以後の研究の基幹となるデータベース作成を目指して従来の研究の欠落を補い、当該期漢詩文全体の展望を可能としたい。

2. 研究の進捗状況

本研究は、(1) 当該期漢詩文資料の収集、整理と、(2) 漢詩文制作の実態の解明、という二つの柱を有している。

(1) 漢詩文資料の収集については、高山寺、東京大学史料編纂所、水府明徳会等所蔵資料の調査を行い、これまで知られなかった漢詩数編を発見している。高山寺と東京大学史料編纂所に所蔵される資料に関する研究が、5. 代表的な研究成果の③「高山寺蔵鷹司兼平漢詩二首について」である。これらに加え、水府明徳会所蔵の『詩集』は、近世以前の日本漢詩の集成であり、新出作品を複数含む、重要な資料である。所蔵者の意向により、全編公刊等の全体的な紹介は行うことが出来ない模様であるが、その存在自体がこれまでほとんど学界に紹介されておらず、その

成立や全体像の紹介から、所収されている作品や作者の分析にいたるまで課題の多い資料である。今年度で終了を予定している本研究の期間内にはそれらを満たすことは難しいが、今後の研究の目処を付けておきたいと考えている。

(2) 漢詩文制作の実態についての整理については、昨年11月に「絵の前の文学空間」と題して、画像の前における漢詩制作について考察を行った口頭発表を行った。これは、これまで発表してきた同テーマによる研究の総括的作業であり、今後論文化する予定である。また、漢詩文の制作者の伝記研究については、本科研とは別に行っている、鎌倉時代中期成立の和歌と漢詩の摘句集『和漢兼作集』作者の研究と合わせ、データベース制作を行っている。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している

論文発表、学会発表の件数は決して多くはないが、資料調査は順調に進んでおり、その成果の分析と報告の準備の段階に入っている。しかし、研究の途中で発見された水府明徳会所蔵『詩集』のボリュームが大きいことから、成果報告については当初の予定よりも縮小し、来年度以降の研究で行う可能性がある。

4. 今後の研究の推進方策

これまでの研究で調査してきた、漢詩文資料の紹介を論文発表、口頭発表の形で行いながら、当該期の漢詩文制作の場、及び作者たちについての問題点についても考察を深めてゆく。

ただし、予想以上に資料が収集されたこともあり、3、現在までの達成度の項目でも述べたように、鎌倉時代漢詩のデータベース構築については来年度以降の研究に持ち越す可能性がある。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 仁木夏実、鳥羽法皇六十日大般若講願文」における罪の意識、大阪大学古代中世文学研究会編『皇統迭立と文学形成』、査読無、2009年7月、p167-186
- ② 仁木夏実、西潤子曇『鳩嶺集』所収二首制作の背景をめぐって、『文藝論叢』、72号、2009年3月、p64~79
- ③ 仁木夏実、高山寺藏鷹司兼平漢詩二首について、『語文』(大阪大学)、査読無、91輯、2008年12月、p11~23
- ④ 仁木夏実、『新撰万葉集』と唐代伝奇小説、アジア遊学105号「特集 日本庶民文芸と中国」、査読無、2007年12月、p176~185
- ⑤ 後藤昭雄・中川真弓・仁木夏実、金剛寺藏『明句肝要』一解題と影印・翻刻、平成16-18年度科学研究費補助金基盤研究(A)『「金剛寺一切経の総合的研究と金剛寺聖教の基礎的研究」研究報告書第1分冊』、査読無、2007年3月、p315~372 (解題p315~317、翻刻は全編共編)

[学会発表] (計1件)

- ① 仁木夏実、絵の前の文学空間、中古文学会関西部会、2009年11月14日、大阪府立大学